



だより



R7.3.11 Vol.42

ありがとう

先日、私の住んでいる地区の公民館祭りに参加しました。私はゲームコーナーの担当でした。小学生～高校生、そして小さな子供までたくさん訪れました。

3歳くらいだったでしょうか。家の人に手を引かれた子供がやってきました。輪投げをした後、景品のお菓子を渡すと、一緒にいた家の方が「何かをもらったときはありがとう!って言うんよ。」と声掛けをしていました。「ありがとう!」「こちらこそありがとう!」

当たり前のことを当たり前で躰ける。大切なことだと思います。「まだ小さいから!」ではなく「小さいうちから!」の意識が積み重なることでその子供の立ち居振る舞いの基礎となっていく気がします。

事実と真実

「**事実は1つだが真実は人の数だけある。**」よく聞く言葉ですね。学校のような集団での関わりがメインとなる場では1つの事実に対して、教師の目、子供の目、保護者の目があり、たくさん**の真実**が生まれます。誰が正しい、間違っているではなく、それぞれの感じ方、捉え方が違うということです。このことはしっかり意識しておかないとトラブルになりがちです。

子供はまだ発育途中ですから、自分中心に物事を捉えがちです。そこに教師や保護者がどう関わるのか、どこまで客観的(俯瞰的)に捉えられるか。大人として気を付けておきたいことだと思います。もし悪質ないじめ等が起これば徹底的に指導しますが、日々の関わりの中でトラブルはどうしても生じてしまいます。そこで子供に何を学ばせるのか?私は「折り合いをつける」ということだと思います。そして正解ではなくお互いの納得解を見付けさせる。学校はそのトレーニングをする場であるとも思っています。

四方山話真穴 ver. 其の四十二(昭和ですが何か?)

「昔はよかった…。」「それはあなたが好き勝手出来ていたからです…。」そんな内容をよく目にします。全力で反論します!私は昭和時代、幼気な子供でした。どちらかという好き勝手やられていた方です…笑。それでもよかったと思う。「昔はよかった病」ってのがああるそうです(汗)。今を考えるとクリックやタッチ一つで大概のことはできてしまう、間違いなく快適で便利な社会になり、生活しやすくなっています。それなのになぜ…。

先日、八幡浜市人権同和教育研究大会に参加してきました。午後、タレントのスマイリーキクチさんが、ご自身の体験を基にした「言葉の責任 ネットの被害者・加害者にならないために」という講演をされました。事実無根の内容が悪意によって捏造される。何気なく発した言葉が歪められ一瞬で拡散される。改めて今の社会の怖さを痛感しました。そしてその中に、今の世の中の生きづらさを感じました。失言や言葉尻を面白おかしく叩かれる。真意とはほど遠い内容が拡散される。そうなる当たり障りのない表面的なやりとりしかできません。(それで教育が成り立つのか?と私は思います。)そして言葉尻を捉えられないように過剰な敬語も氾濫してきます。「○○させていただきます。」「○○になります。」「お水の方、お持ちしました。」etc。

私は「**学校はまちがうところ**」でいいと思っています。子供は間違いながら成長します。大人も人間ですから、間違ふことはあります。謝るべきは謝り、よりよい関わりを探していけばいいのだと思います。言動を切り取り、SNSグループチャットで拡散する。それに生産性があるでしょうか。井戸端会議はその場で消えますが、**デジタルは永久に残ります**。その感覚の麻痺は必ず子供に影響します。教師も子供も保護者も面と向かって伝えたいことを伝え合える。(敬意と礼儀は忘れずに)スマイリーさん曰く、**人で遊ぶのではなく、人と遊ぶ!**そんな学校にしたいと思う今日この頃です。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。